

Society 5.0時代の人々・コミュニティに 求められる看護の学術と実践とは

神原咲子

日本学術会議連携会員/神戸市看護大学教授/日本災害看護学会理事



神戸市看護大学



日本災害看護学会
Japan Society of Disaster Nursing

日本看護科学学会 COI 開示

筆頭者 神原咲子

所属名 神戸市看護大学

- 筆頭演者は日本看護科学学会へのCOI自己申告を完了しています。
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体等はありません。

第25期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会

委員長	小松 浩子	(第二部会員)	日本赤十字九州国際看護大学 学長
副委員長	西村 ユミ	(第二部会員)	東京都立大学教授
幹事	神原 咲子	(連携会員)	神戸市看護大学看護学部教授
幹事	新福 洋子	(連携会員)	広島大学副学長、広島大学大学院医系科学研究科教授
	多久和 典子	(第二部会員)	石川県立看護大学名誉教授
	浅野 みどり	(連携会員)	名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻教授
	井上 智子	(連携会員)	国際医療福祉大学大学院教授
	太田 喜久子	(連携会員)	日本赤十字看護大学 特任教授
	片田 範子	(連携会員)	公立大学法人三重県立大学理事長・学長
	萱間 真美	(連携会員)	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国立看護大学校長
	坂下 玲子	(連携会員)	兵庫県立大学看護学部教授
	真田 弘美	(連携会員)	石川県立看護大学学長
	田高 悦子	(連携会員)	国立大学法人北海道大学大学院保健科学研究院教授
	菱沼 典子	(連携会員)	前三重県立看護大学理事長・学長、聖路加国際大学名誉教授
	寶金 清博	(連携会員)	国立大学法人北海道大学総長
	三重野 英子	(連携会員)	大分大学医学部看護学科教授
	南 裕子	(連携会員)	神戸市看護大学副理事長・学長
	森山 美知子	(連携会員)	広島大学大学院医系科学研究科教授
	山本 あい子	(連携会員)	兵庫県立大学名誉教授
	吉沢 豊予子	(連携会員)	東北大学大学院医学系研究科教授
	綿貫 成明	(連携会員)	国立看護大学校看護学部看護学科老年看護学教授
	坂本 史衣	(特任連携会員)	学校法人聖路加国際大学聖路加国際病院 QIセンター感染管理室

健康・生活科学委員会看護分科会 (2020年10月29日～2023年9月30日)

設置目的

- 看護学に関する唯一の分科会として看護の学問分野を代表し、看護系学会のネットワークである日本看護系学会協議会との組織的連携を生かしながら、時代を見通した重要課題を検討し、提言を発出していく。
- 地域共生社会の形成、ケアサイエンス領域の創出、高度実践看護師と看護の役割拡大の促進などに関わるこれまでの実績を生かし、さらに時代や社会、人々のニーズに応える看護学を構想し、それを実現する活動を広く他分野との連携のもと推進する。

健康・生活科学委員会看護分科会 (2020年10月29日～2023年9月30日)

審議事項

1. **地域共生社会形成**のための多分野連携に基づく看護学、看護分野の貢献に関する検討
2. **健康危機に対するレジリエンスの促進**に関する他分野連携に基づく看護学、看護分野の貢献検討
3. **高度実践看護師**と看護の役割拡大の促進
4. **時代や社会・人々のニーズ**と看護学に関わる重要課題の検討

「地元創成看護学」

「地元(home community)の人々(population)の健康と生活に寄与することを目的として、社会との協働により、地元の自律的で持続的な創成に寄与する看護学」

「看護の対象集団・組織等が所在する地域、または看護系大学等の組織の理念や趣旨に根差す特定の集団」

(地理的境界もしくはは共通の特性でかたどられる社会集団)

- ✓ 少子高齢化の進行に伴う本格的な人口減少社会の到来
- ✓ 自然および社会の変化による健康危機の多様化と増大
- ✓ 「地元」固有の健康課題に即した対応方策の必要性

地元での実践や教育x社会貢献活動
危機時への体制

組織の刷新
経費の確保

多様な職種や分野との協働

連携・協働によるプラットフォームの形成

健康課題を共有
専門職人材の育成

市民参加型研究

実装事例:

「ニーズの発出」
「大学と地元との常設チャンネル」
「課題解決のための組織化」
「地元と大学のダイナミックな変化—
エンパワーメント」

看護のデジタルトランスフォーメーション (DX)

実践: 業務の最適化・効率化を図り、人が担うべき部分、技術利用が可能な部分を吟味した、デジタル技術の活用や技術開発

研究: 看護・ケアの場におけるリアルなニーズ・リサーチクエストと、工学的な開発方法論の融合

教育: 学習者の個別ニーズに応じた学習効果の最大化、学習プロセスの可視化、新しい学習方略

法的整備: 看護実践・研究のDXとデータの利活用のための法整備や倫理指針の更新

加澤 佳奈	広島大学大学院医系科学研究科 特任講師
友滝 愛	東海大学医学部看護学科 特任講師
仲上 豪二郎	東京大学大学院医学系研究科 教授
横田 慎一郎	東京大学医学部 講師/東京大学医学部附属病院企画情報運営部 副部長
吉永 尚紀	宮崎大学医学部看護学科 教授

報告(2023)「持続可能な社会に貢献する看護デジタルトランスフォーメーション」

高度実践看護師と看護の役割拡大

危機の時代にチャレンジする高度実践看護師の未来

日時：令和5年7月23日（日）13：00～16：00

場所：オンライン開催（オンデマンド配信あり）

総合司会：西村ユミ（日本学術会議第二部会員、東京都立大学教授）

開会挨拶：望月 真弓（日本学術会議副会長）、慶應義塾大学名誉教授
武田 洋幸（日本学術会議第二部長、京都産業大学生命科学部教授）

趣旨説明：小松 浩子（日本学術会議第二部会員、日本看護学会協議会監事、
日本赤十字九州国際看護大学学長）

〈講演〉

13:20～13:40 「地域ケアの協働の未来に必要な裁量とは」

折戸 雅恵（公益社団法人地域医療振興協会 公立久米島病院
日本看護系大学協議会ナースプラクティショナー）

13:40～14:00 「診療看護師(NP)の導入後の体制構築とは」

本田 和也（独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 統括診
療部脳神経外科（診療看護師（NP））

14:00～14:20 「どのように制度を拡張していくべきか（実際の活動）」

市川 智里（国立がん研究センター がん看護専門看護師）

14:20～14:40 「医師からみるAPNの裁量拡大の必要性とは」

一戸由美子（むさしの丘ファミリークリニック 院長）

14:40～15:00 休憩

〈総合討論〉

15:00～16:00

司会：神原咲子（日本学術会議連携会員、神戸市看護大学教授）
新福洋子（日本学術会議連携会員、広島大学副学長）

〈指定発言〉

鎌倉やよい（日本看護系大学協議会代表理事、日本赤十字豊田看護大学学長）
栗田康生（一般社団法人日本NP教育大学院協議会理事、国際医療福祉大学教授）
宮田俊男（早稲田大学理工学術院教授、医療法人DEN みいクリニック理事長）

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会
健康・生活科学委員会看護学分科会
共催：一般社団法人日本看護系学会協議会
後援：一般社団法人日本看護系大学協議会
一般社団法人日本NP教育大学院協議会
公益社団法人日本看護科学学会
公益社団法人日本看護協会

申し込み



専門性や活躍場面

- ✓ 高度な臨床判断と思考プロセス、患者管理の共有
- ✓ 医療の高度化やタスクシフトへの対応
- ✓ 地域やプライマリ領域での役割拡充は急務
- ✓ 看護提供の重層化による看護能力向上

医師（他職種）との協働

- ✓ 看護分野の多彩な専門性によるヘルスケアの質の効果を向上
- ✓ 看護コアコンピテンシーの共有
- ✓ 医師との連携を強化
- ✓ 新しいアプローチを模索

法的権限やインセンティブ

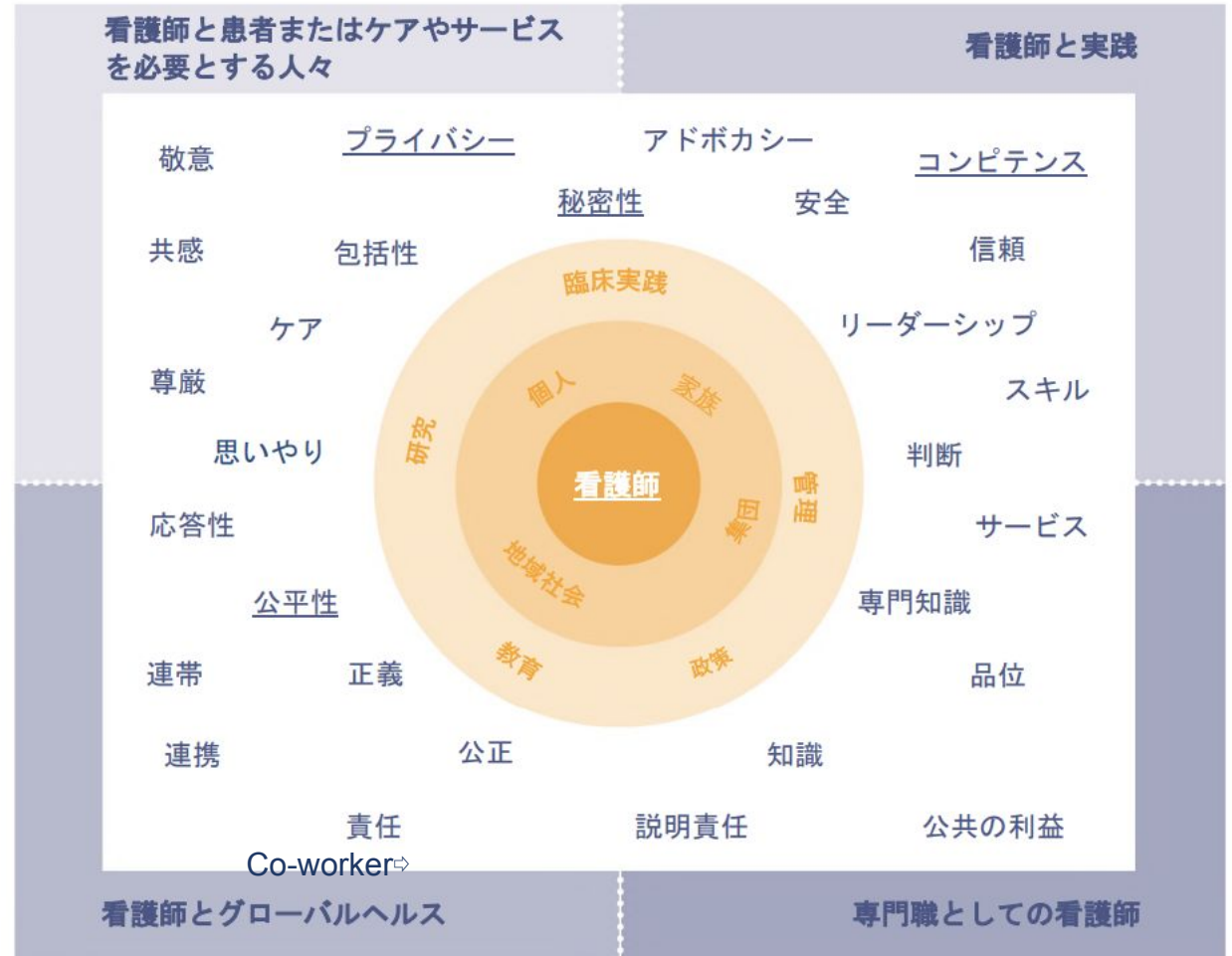
- ✓ 法的に明確な判断と責任能力
- ✓ 専門性に対するインセンティブ

- ✓ 具体的な展望

- ✓ 現場や地域での活動による患者ケアの質向上の可視化

ICN 看護師の倫理綱領(2021改訂) 専門職の価値観

- 看護師を保護・支援
- すべての患者に最高品質のケア
- 適切な教育、訓練、リソースの確保。
- ソーシャルメディア
- 医療現場における人工知能
- ヒトゲノム技術
- 公衆衛生と持続可能な開発目標
- 環境及び気候変動の影響



1. 人材の多様化
2. 看護師の健康の強化と保護
3. 教育の変革: 香港の経験
4. 健康の社会的決定要因/システム・リーダーシップ
5. ケアへのアクセス/看護のポテンシャル
6. 看護師への支払いモデル
7. 災害と公衆衛生緊急事態への対処(アジア)
8. 技術的公平性の実現/イノベーション
9. 共有課題の作成

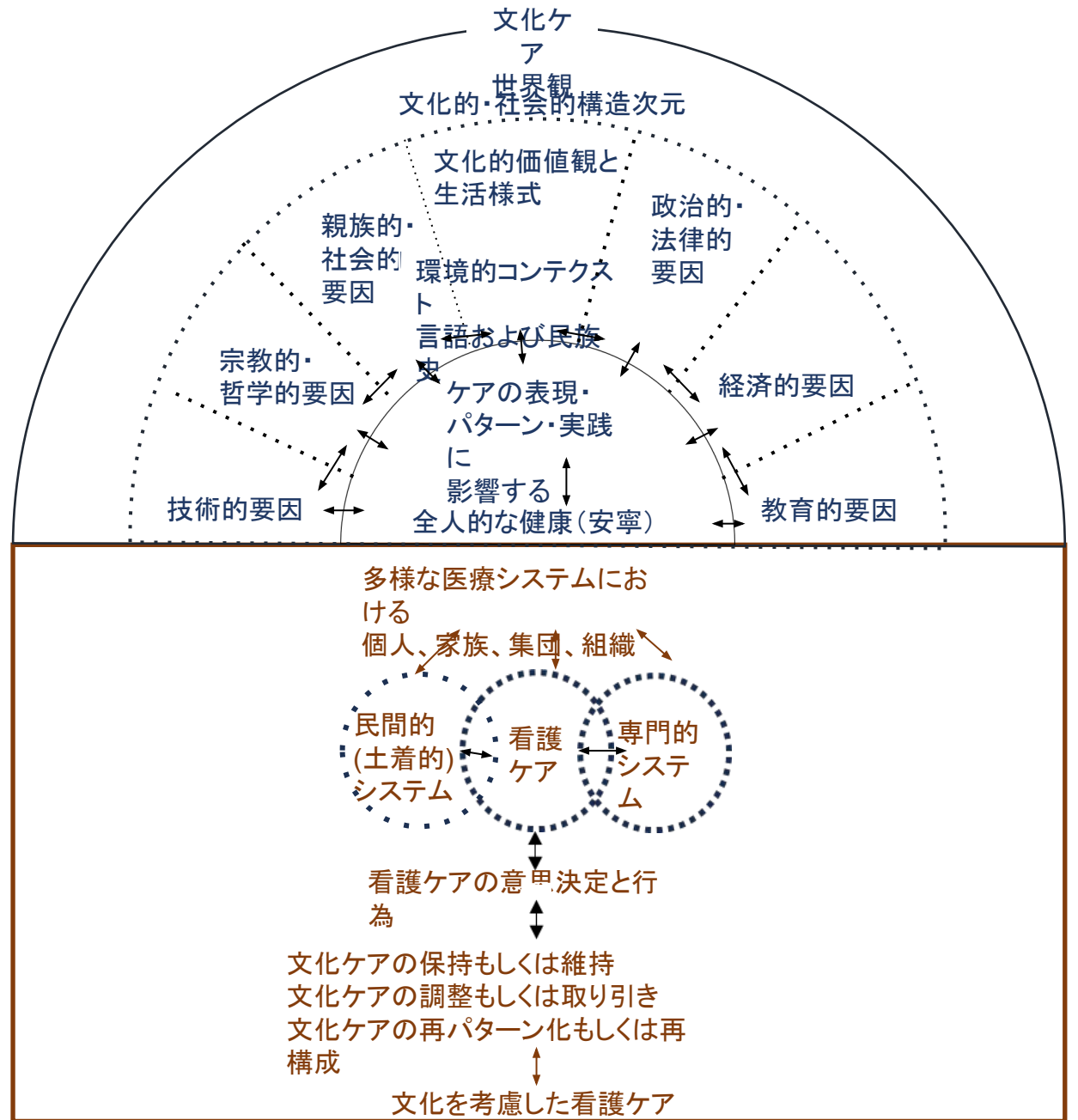
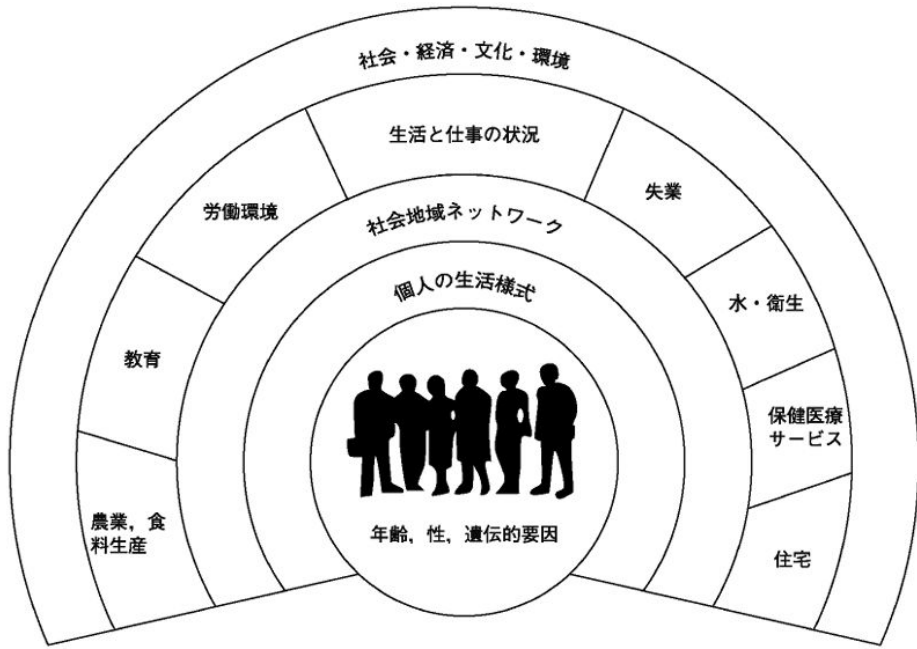
Cf. (日本医療政策機構のプラネタリーヘルスの観点からの政策提言) 診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス報酬の改定にあたり、持続可能性と地球環境への配慮を踏まえた強靱かつグリーン保健医療システムの構築に関する提言(2023年12月6日)

提案1: 再生可能エネルギー導入による入院基本料等加算の見直しや増額
 提案2: 医療材料等へのグリーン調達に関するインセンティブを付与
 提案3: 機能強化加算に在宅生活環境の把握、評価に関する追加加算
 提案4: 介護報酬における在宅生活環境整備(熱中症予防等)支援に対する加算

The Future of Nursing 2020-2030: Global Applications to Advance Health Equity

Susan Hassmiller
 Ashley Darcy Mahoney
 Kenya Beard
 Editors

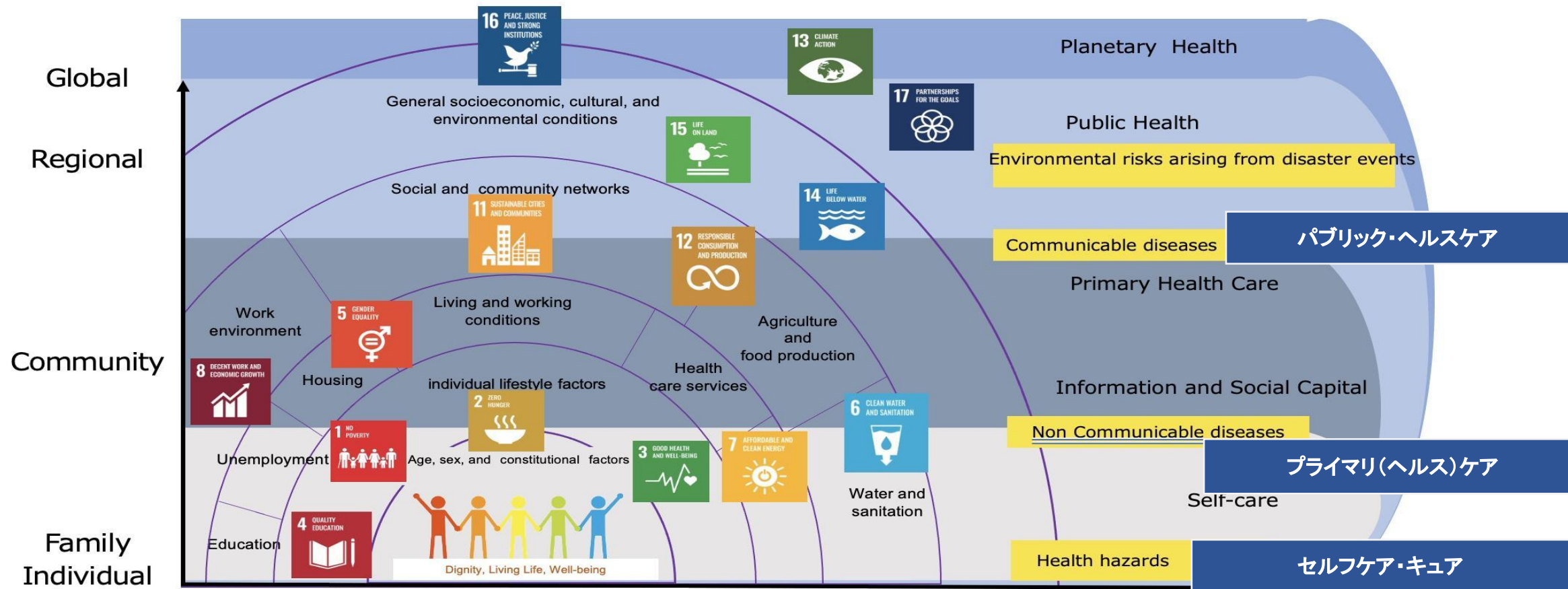




Dahlgren, G., & Whitehead, M. Policies and strategies to promote social equity in health. Stockholm, . (1991).

Leininger's Sunrise Enabler to Discover Culture Care Modified by McFarland & Wehbe-Alamah, 2015

健康の社会的決定要因 (SDoH) > グローバルヘルス > プラネタリーヘルス



Society 5.0/プラネタリーヘルスの看護ケアの意思決定と行為

1. 脆弱な人々の変わりやすいニーズへの対応
2. コミュニティの希薄化と情報のデジタル化が進んだ社会への市民参画
3. 役割分担でなく社会全体多様な人を巻きこんだフレキシブルなシステムの運用と理解ある人材の獲得

4. 危機が露見する脆弱性に関わる社会構造の国境を超えて公転できるユニークな利活用モデル

グローバル課題と地元創成のアクションの方向性

- ### グローバルな課題
- 9. 気候変動
 - 8. ブルー・グリーン・インフラ
 - 7. 食料エネルギー水 (FEW) ネクサス
 - 6. 都市の歴史と未来
 - 5. 災害管理
 - 4. 持続可能なビジネス
 - 3. 市民とコミュニティ
 - 2. リーダーシップと人的資本
 - 1. ヘルスケアとライフプラン

プラネタリーグローバルヘルスケア

人々は様々なシーズ・ニーズを持ちグローバルに移動している

トップダウンのモニタリングでは見えない人間中心の課題

人材の流出・地域課題の未解決

生活・労働環境改善・コミュニティがマッチしない。

広いコミュニティでの意思決定、合意形成の共創

遅発性の健康問題・課題は、軽視か見逃され続けている。

セルフケア、生活様式の変容 リモートワーク、遠隔相談などでの自律した暮らし

個のリーダーシップ・創出

パブリックヘルスケア

個性
ジェンダー
世代
障害者
慢性疾患
要支援者にラベリングされ
役割が固定される

プライマリ(ヘルス)ケア

エイジングと変化する多様な価値観・能力・(生活リスク)
個別性・複合性・構造的性

セルフケア

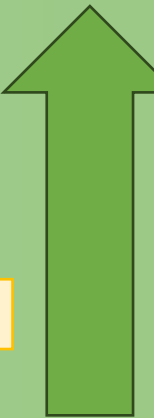
課題の本質

日本の現状

実現が望まれる社会

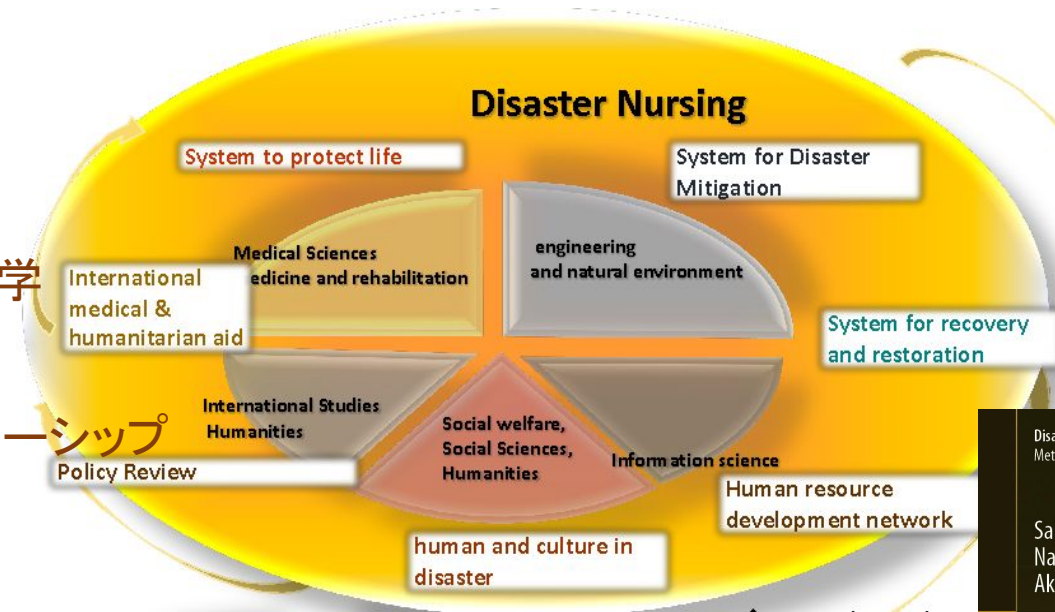
グローバル社会での表出

一貫通貫の政策



Work with the ISC to advance science as a global public good

1. 学際連携から超学際性へ
2. 知識社会
3. オープン・ガバナンス
4. グラスルーツ・プロセス・イノベーションと市民科学
5. 若者のリーダーシップ
6. 新たに発展する分野としてのサイエンス・プレナーシップ



International Science Council
The global voice for science

**POLICY BRIEF:
CLOSING THE GAP BETWEEN
SCIENCE AND PRACTICE
AT LOCAL LEVELS TO
ACCELERATE DISASTER
RISK REDUCTION**

Authors: Satoru Nishikawa, América Bendito Torija, Qunli Han, Fang Lian, Jo-Ting Huang, Lachmann, Anda Popovici and Anne-Sophie Stevance

Reviewers: John Handmer, Mahefasa Randrianaivoona, Virginia Jimenez Diaz, Kristlann Allen, Melody Burkins, Kwaku Koranteng, Virginia Murray and Bapon Fakhruddin

Case study contributors: Sakiko Kanbara, Lei Yu, Rahma Hanifa and Pradip Khatiwada

Disaster Risk Reduction
Methods, Approaches and Practices

Sakiko Kanbara · Rajib Shaw ·
Naonori Kato · Hiroyuki Miyazaki ·
Akira Morita *Editors*

**Society
5.0, Digital
Transformation
and Disasters**

Past, Present and Future

Springer

第8回世界災害看護学会学術集会

【メインテーマ】:

「変化するリスク環境における災害看護の再考—プライマリ・ヘルスケアからソーシャル・イノベーションへ—」

【大会長】神原咲子(神戸市看護大学教授/日本災害看護学会理事)

【会 期】2024年11月29日(金)～30日(土) +12月1日(日)エクスカージョン(オプション)

【会 場】神戸市看護大学

【会議日程(案)】

11月29日(金) (Pre-conference)学際的な事前学習 の場

-気候変動・ブルーグリーンインフラなど

11月30日(土) メインセッション(基調講演 等)

-アフターコロナの災害管理 x 持続可能なヘルスサービスとケア

分科会パラレルセッション(提案型) 展示など

先端技術の適応、脆弱な人々・多様性の理解 など

(懇親会)

12月1日(日) エクスカージョン(オプション)

神戸の復興・地元の暮らし

【参加予定者数】メイン会場:国内外より約400名 (+オンライン視聴)

ご協力・ご参加
どうぞよろしくお願いいたします。

3月頃演題登録開始
日本災害看護学会のWebで新着情報
確認をお願いします。